

ケアリーバー Care Leaver

||

社会的養育環境を巣立った人

18歳になり

突然社会に放たれるわたしたちは
仕事や学生生活がうまくいかなかったり
人間関係に悩んだりすることが多い

ちょっとしたことが社会生活の大きな壁になることも少なくない

でも

「相談する」というのはとても勇気がいること
言いにくいこと、伝えにくいこともたくさんある
そんなわたしたちが気楽に声をかけあい
おたがいにサポートしあえる環境をつくりたい

CONETプロジェクトは

そんな『つながり』をつくるための活動です
わたしたちらしくつながる『つながりのデザイン』を
描いていきましょう!

CONETPROJECT

(コネットプロジェクト)

令和4年度日本財団通常助成事業

ケアリーバーのつながりと ピアサポートの構築事業 報告書



○ はじめに

平成29年「新しい社会的養育ビジョン」によって、「家庭的養育の優先」が示された。これは戦後からの社会的養育システムに大きな変革をもたらすきっかけとなった。社会的養育は「何らかの事情によって家族内での養育ができない、または適切とされないこどもたちの養育を家族に代わって社会が保障する」ことである。児童養護施設や里親家庭で育つこどもたちは「18歳の壁」といわれるように、多くの場合、18歳到達年齢の年度で社会的養育環境を巣立ち、進学や就職をしながら自らのチカラで【自立】をめざす。しかしながら、虐待や不適切な養育環境を経験したこどもたちにとって、過去の痛みや傷つきは容易には回復しえない。この若者たちは、言い換えれば社会的養育環境を巣立ったのち、社会の荒波にもまれながら懸命に生きている若者たちである。

こういった若者たちへの巣立ち後の社会的サポートとして「社会的養護自立支援事業」（アフターケア事業）がデザインされ、民間団体や公的機関が、様々な角度からサポートを行っている。当法人は平成30年より大分県より当該事業を受託しているものの、私たちの取り組みは「若者にとって十分に届いているのだろうか」。そして「若者たちが望むサポートのデザインとはどのようなものなのか」。そのような問いを抱えるようになった。

そこで、令和3年度より「もっと若者の声を聴こう」「ケアリーバーとのかかわりを持とう」という試みとして「CONETPROJECT」はスタートした。また、かかわりのあった当事者が「ケアリーバーが相互につながりたい」という声を発信してくれたことから、令和4年度CONETPROJECTの事業スキームを拡大する方向を検討し、日本財団からの助成をいただいたことで本PROJECTのカタチづくりを始めるに至った。本事業の実施にあたっては、基本的なコンセプトとして「拠点（相互交流できる居場所）を設置し、取り組みの基本は若者たちにデザインしていただく」こととした。おじさまおばさまが余計なことはせず、若者たちの安心保険のような役割に徹しながら、できれば若者が描くデザインに仲間入りさせていただく。そこで、生まれてくる「何か」を享受していくのは、今日この時も社会的養育環境で暮らすこどもたち（みらいのケアリーバー）や社会的養育環境にはいかなかったけど、地域で生きづらさや困難を抱えるこどもや若者たちと考える。

本PROJECTは、未だ試行錯誤しながら、笑ったり、悩んだりの日々である。しかし、当事業に主体的に取り組んでくれる若者たちの姿からは大きな可能性と希望を感じる。令和5年にはこども家庭庁の新設、続く令和6年には児童福祉法の改正とこどもや若者たちの周辺や社会的養育関連についても大きな変革期を迎える。本事業の取り組みの中で得られたことをこの場かぎりのものにすることなく、これからの新しい社会デザインにつなげていけるように取り組んでいきたいと考える。

最後になりますが、当事業に多大なる助成を行ってくれた日本財団さま、SVとして見守ってくださる大分大学福祉健康科学部の相澤仁教授、協力してくださる地域のみなさま、そして何よりもPROJECTを実行してくれる若者たちに感謝と敬意をもって。

「すべてのこどもたちに明るい未来を！」

特定非営利活動法人おおいた子ども支援ネット

理事長 矢野 茂生

○ CONETPROJECTを実施して

CONETはこの一年間でたくさんのことを経験し、さまざまなことを実感しました。まずチームの全員で痛感したのは、「ゼロから1を生み出す難しさ・大変さ」です。私たちCONETは、大分県において初の、きっと全国においても初のプロジェクトでした。本事業（ケアリーバーとアフターケア事業スタッフの協働による取組）のような先行事例やモデルがないため、私たちはゼロからのスタートを切りました。ハード面の整備はもちろんのこと、どうすればケアリーバーやいろいろな方々と「つながる」ことができるのか、何をすることが「ぴあサポート」になるのか、広報活動やSNS活用をどのように進めていけばいいのかなど、活動内容に関して多くのことに悩み、CONETのチーム全員で考え、試行錯誤してきました。一年間を振り返ってみると、CONETがゼロから1を生み出したのかどうかはわかりませんが、私たちの活動の軌跡が、これから先、だれかのためになれば幸いです。

そしてなによりも強く感じたのは、いろいろな人と「つながった」ことのありがたさです。あつという間の一年間でしたが、本誌に記載のとおり、私たちは実に多くのさまざまな方々と出会うことができました。児童養護施設や里親のもとを巣立ったケアリーバーの方に加え、（いずれはケアリーバーになる）措置中の児童、こども若者などの福祉にかかわる方、あるいは、CONETに興味をもってくださった他業界・他分野の方などです。「たった一年で」かなり多くのひとびとに広く知ってもらえたな～、こんなにすごい方々にも注目してもらえたのか（驚き!）というのが私たちの率直な感想です。やはり特に思うのは、お会いしたケアリーバーの方々や施設入所中の子どもたちが私たちのような存在を知ること、彼ら彼女らの記憶や心に何か残るものがあつたのなら、それ以上に嬉しいことはないということです。どのように「残った」のかはもちろん多様で人それぞれですが、それは「ちょっと何かあつた時に、なんとなく話をしたい時に、気軽に話ができる存在」かもしれません。「周りの大人や友人、施設の先生にはちょっと話しにくいことを相談したい存在」かもしれません。はたまた、「暇な時に、時間つぶしのために、いっしょに遊びたい存在」かもしれません。CONETとの関わりが、CONETの存在が、人と人との「つながり」をつなぐ架け橋になればありがたいと思う日々です。

さて、これからのCONETはどうなっていくのか、私たち自身にもまだわかりませんが、この一年で積み重ねてきた「つながり」はきっとこれからも続いていくと確信しています。さらにその「つながり」が、「次のつながり」へと導いてくれることを信じ、わくわくしています。CONETは令和5年度を迎えましたが、もっともっと「つながり」がたくさん増えてほしいと思っています。今後どのような活動や取組を展開すれば、今までよりも多くの人とつながることができるのか、これからも悩み考え、挑戦を続けたいと思います。

CONETPROJECT チームリーダー
川村 涼太郎

活動報告

(川村涼太郎・内田理美・後藤拓也)

○ 拠点づくり

本事業で使用するための活動拠点づくりを行いました。大分市内のビルの1フロアをお借りし、整えていく中で「温かみのある空間」を目指して木材を使用した机や、リメイクした棚などを使用して部屋の雰囲気に合うようにしました。

こうして出来上がった拠点を私たちは“CONET STATION”と呼んでいます。ここでは私たちが、皆様と交流をする居場所になっています。雰囲気だけでなく機能面も重視し、テレビを設置することで、来所者と一緒に動画や音楽を楽しんだのは良い思い出です。



① 交流の場

“CONET STATION”ではケアリーバーはもちろん、活動に興味を持っていただいた方々(付録に記載)に訪問していただき、意見交換などの交流をすることができました。

② 寄贈品の提供

本年度は若草プロジェクト様の取り組みである「TsunAが〜」を通じて様々な企業・団体から洋服や化粧品を、フードバンクおおい様から食品をご寄贈いただきました。CONETは寄贈品を預かり、提供するという形で企業とケアリーバーを「つなげる活動」をしています。



○ 施設等訪問

CONETの活動を知ってもらうため、6月に大分県内の児童養護施設へ訪問をしました。どの施設からも暖かく出迎えていただきました。

意見交換の場では私たちの思いなども含めてたくさん話を聞いていただきました。逆に今まで聞くことがなかった職員側からの話も聞いて私たち自身の成長にもつながったと思います。

話をする中で、特に印象的だったのは「利用してほしい」という言葉です。とある職業指導員さんは「児童と接する中でどうしても当事者にしか分からない思いがあり、職員がどんなに寄り添っても結局は当事者ではないから大人を信用することが難しい。だけど信用していなくても、色んな制度や職員、大人を利用して自分自身が生きやすい、過ごしやすいように使ってほしい」と言っていました。

私たちは迷惑をかけているという気持ちがあったため職員側からの「利用してほしい」の言葉になんだかホッとしました。施設の職員さんはインケアの児童やケアリーバーのことを気にかけてくださっていると感じました。



交流できたのは職員さんだけでなく、そこで暮らす子どもたちとも、わずかながら関わることができました。時折、当時のことを思い出し複雑な気持ちになることもありましたが、その経験があるからこそ子どもたちが安心して暮らせる仕組みを作っていきたいと思いました。

各施設によって私たちに求めることは様々であり、その一部を紹介します。

- ・「相談をする」ということの敷居を下げてほしい
- ・退所後、連絡が取れなくなった人の安否を知りたい
- ・インターネット等で積極的に発信してほしい
- ・退所後に繋がる難しさがあるので施設で暮らしているうちに関わってほしい
- ・長期的に続く事業になってほしい
- ・県外で就職・進学した人との関わりが薄くなってしまっているので解決してほしい
- ・ケアリーバー同士でしか分かり合えない相談を聞ける場であってほしい

様々な考え方がある中で、まずは私たちを受け入れ、率直なご意見をくださった各施設の皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。



○ オレンジリボンたすきリレー

オレンジリボンたすきリレーとは児童虐待防止推進月間の11月に県民に広く虐待防止を訴える活動です。

子ども虐待防止の象徴カラーのオレンジは、子ども達の明るい未来を表すということで、国道10号線沿い(大分市田ノ浦ビーチ付近)でのぼり旗や横断幕をもって児童虐待防止のPR活動をしました。

初めての参加でしたがたくさんの団体が参加しており支えてくれる人たちがこんなにいるのだと感動しました。



○ ラジオ出演

実はCONETはラジオ出演もしています。ラジオ番組を持っている広告会社の方とご縁があってラジオに出演させていただきました。緊張してうまく話せるか不安でしたが、ラジオパーソナリティの方のおかげで楽しくお話ができました。番組ではCONETについて話すことができました。

CONETの由来

Connect(つながる)

+Network(ネットワーク)

理想の活動

- ・ケアリーバーで正月に集まって年明けカウントダウンや鍋をつつきたい
- ・ケアリーバーでキャンプやBBQをしたい
- ・実家に帰れない、帰らないケアリーバーと集まって何かしたい
- ・SNSを使って交流、恋愛、お悩みなどの相談(ライブ配信など)

理想の活動について、パーソナリティの方は「楽しそう、その時は呼んでよ。食材とか持っていきよ」と言っていました。理想の活動が現実になれるよう活動したいと思います。



○ きつきプロジェクト

きつきプロジェクトとは、特定非営利活動法人おおい子ども支援ネットが取り組んでいる、農業を社会的養護環境で生活する児童の進路選択の1つとして考えてもらい、後継者不足の産業の担い手と地域定着を目指した青少年等自立支援就農チャレンジ事業です。

杵築市とおおい子ども支援ネットが協同して取り組んでいる事業に、社会的養護当事者の私たちであるCONETが加わることで、より身近に感じてもらうという思いで加わせてもらいました。

実際に私たちが農業体験をし、PR動画を撮影して編集したり、チラシを作って大分県内の児童養護施設にお届けしたりしました。

自分たちで農業体験をすることで、農業の楽しいところを感じる事ができ、子どもたちにアピールしようと思えました。また、日ごろ何気なく食べている野菜や果物が育つ過程を知ることで、食べることのありがたさを学びました。これらは貴重な体験となり、私たちにとっても良い経験になりました。



○ ケアリーバーとの出会い

CONETの活動を知っていただいたケアリーバーと出会い、雑談などを行いました。

CONET STATIONに来所してくれる場合や、どこかで待ち合わせる場合、児童養護施設の行事に参加させていただく場合と会う方の事情に合わせて様々な場所で出会いがありました。

まず自己紹介とCONETの説明をし、冗談を交えつつ雑談(恋バナ、職場、趣味など)をしました。最初はお互い緊張する時もありましたが、雑談をするうちに笑って話をしてくれるようになり、ケアリーバー特有の悩みを打ち明けてくれる人もいました。また、少しでも話しやすくしていただくために、私たち自身から児童養護施設や里親家庭に居る時の楽しかったことや、辛かったことを話すことで、CONETでは重たい話題ではないと感じてもらう工夫をしました。しかし、悩みを引き出すために雑談をする訳ではなく、自然な会話の流れの中で愚痴等を言い合うという感覚です。

今までCONETメンバー以外のケアリーバーと会うことや、話すことはほとんど無い中で、共通の悩みや思いを聞き、自分だけではなく同じ思いを持っているケアリーバーがいることを知り、安心感を得ることができました。私たちとは違う視点で物事を考えている方もいて、貴重な話が聞けました。時には5時間もCONET STATIONに滞在していただきお互いの思いをゆっくり語り合う日もありました。



ケアリーバー特有の悩み(例)

・会話の中でケアリーバーであることを説明しないといけなくなった時どうするのか
 …社会的養育環境を経験していない方と、生い立ちに関する話を話すときに、どうしても暗くとらえられる時があり、その相手が私たちに対し、申し訳ない気持ちを持ってしまい、お互いにネガティブな感情になることがありました。そうならないように、あえて隠さずに話す方がお互いにとっていいのではないかと思います。そのためにケアリーバーが自身と向き合うことも大切です。

・保証人問題
 …頼れる親族がないことがある私たちにとっては、家や車などの契約時に必要となる保証人が用意できないという問題があります。

・ネガティブ思考
 …虐待などを受けてきたことにより、自身の存在を否定されたように感じて生きてきたため何事にもネガティブな思考を抱いてしまいます。

・結婚、出産、子育ての不安
 …パートナーやその両親にケアリーバーだとカムアウトする勇気がないことや、頼る親がない中での出産、子育て等の不安。子どもに対する接し方、自身が受けてきたこと(虐待)をしてしまうのではないかという不安を抱えがちになります。



○ 年中行事を通じた関わり

若者の中でも特にケアリーバーは年中行事の知識が乏しいと思うことがありました。

メンバーの中には初詣の経験がなかったり、正月に帰る家がなく正月の過ごし方が分からなかったりして、私たちと同じように年中行事を「経験」していないケアリーバーもいるのではないかと思います、CONETメンバーと一緒に経験できたらいいなと考え、様々な年中行事を体験してみました。

体験した行事の中でも初詣は印象深いものになりました。年末に神社の宮司さんに参拝の仕方を教えてもらいに行き、その作法を動画にしてInstagramで共有しました。その後、初詣に行ったことのないケアリーバーと一緒に参拝することができました。

おみくじは大吉が出るまで引きました。おみくじの内容を和気あいあいと見せ合ったり(特に恋愛運♡)、お守りを買ったりととても楽しい初詣になり、参加してくれたケアリーバーの方も「楽しかった」と笑顔で言ってくれました。

同行したメンバーも初詣は数回しか経験がなく、こんなに楽しくケアリーバー仲間と初詣できるとは夢にも思いませんでした。帰り道「つながりができてるなぁ」と実感しました。

身近なケアリーバーと一緒に行事等を体験できるのはCONETの強みだと考えています。

また年中行事だけでなく、冠婚葬祭の知識も乏しいと感じているので、今後もInstagram等で情報を共有していきたいと思います。

・初詣(参拝)



・初詣(おみくじ)



・鏡開き



・節分(恵方巻)



○ インケア児童に向けたSSTの開催

児童養護施設に入所中の方に向けて法律に関するSST(ソーシャルスキルトレーニング)を計2回開催しました。

研修の説得性を増すために、法律の専門家である弁護士の方に協力していただきました。まず、CONETメンバーが法律の必要性を勉強することでその大切さを学び、インケアの方へ共有したいという意識になりました。

なぜ法律の研修にしたかという、令和4年度4月から民法改正により成人年齢が引き下げられ、インケア中に18歳になる方がいるので、これまでとの違いや起こりうるリスク等を周知していただくためという背景があります。結果として、ケアリーバーがSSTを行うというのは県内で見ても前例がないことであり、貴重なイベントになったと思います。今後は、法律だけでなく保険など様々なトピックを取り扱ってまいります。



< 第1回 SST >

10月にSST「どんなもんだい?! 法律問題」を開催しました。当日の実施には、大分県弁護士会の方2名と児童アフターケアセンターおおいたの方3名に協力していただきました。

内容としては自転車事故、自動車事故、金銭貸借の際に関わる法的トラブルや予備知識を中心に扱いました。具体的な例を挙げると、事故を起こしたときの損害賠償や、刑事責任に加えて、借金の口約束は有効かどうか等です。

当初想定していたよりも多い33名(大分県児童養護入所児童24名、職員9名)の人に参加していただきました。

お堅いSSTと思われないようにするためにイベントを告知するチラシや、当日のプログラム資料、アンケート用紙を親しみのある作りを心がけました。また、単なる「研修会」形式では退屈で記憶に残りづらいというのは経験上わかっていたので、事例を動画で紹介することや、弁護士の解説をCONETメンバーとの対話形式にする等の工夫をしました。SST後のアンケートでは、自由記述の感想をたくさん書いていただき、開催して良かったと思うことができました。

良かったこともあった反面、反省点もあったので、第2回への開催で改善を目指してまいります。





参加していただいた方々や、協力いただきました弁護士の方やアフターケアセンターの方のおかげで素晴らしいSSTになりました。この場をお借りして感謝申し上げます。



< 第2回 SST >

1月にSST『18歳成人としての「権利」と「責任」』を開催しました。10月開催のときと同じく、大分県弁護士会の方2名と児童アフターケアセンターおおいの方4名に協力していただきました。

今回の内容は、成人年齢が18歳に引き下がった事により、できるようになること、できないことを〇×クイズで確認しました。また、実際にあった若者を狙った詐欺、あやしい副業の勧誘、高額な契約を促されるなどの事例から対策の方法を取り扱いました。

第1回のSSTで行った工夫はそのままに、説明の最後にはCONETメンバーが成人してからの趣味や旅行の写真を見せようことで、大人になることは不安も大きいけれども楽しい事もたくさんあるということをアピールしました。

第1回の反省点として、参加者とコミュニケーションを取りたいということがあったので、〇×クイズ形式を研修に取り入れ、参加しやすいようにパネルを手作りしました。その結果、積極的にクイズに参加してもらうことができました。その他、SST全体の感想をインケアの方からいただくことができ、施設で暮らしたことのある私たちにとってとても嬉しかったです。



〇 Instagram

CONETはInstagramの活用もしています。4月活動初期からSNSを活用したいと思っていたのですが、SNSの特徴やリスク、メリット、運用方法などの話し合いで停滞していました。株式会社ContさんにSNSの詳しい運用方法を説明してもらい、注意点や目的を明確にすることで念願のInstagramを開設することができました。

数あるSNSの中で、なぜInstagramを選択したのかというと、Instagramだと写真をメインに使用できるため、誰がどんな活動をしているのか視覚的にも伝えることができますし、メンバーの顔出しや、つながってくれた方との交流などを載せることで身近に感じてもらえるのではないかと考えたからです。



投稿内容

- ・CONETメンバー紹介
- ・ケアリーバーとの交流
- ・SSTのお知らせ&報告
- ・寄贈品提供のご案内
- ・STATION開所日のご案内
- ・メンバーの失敗談、メンバーの感じたこと
- ・初詣の参拝の仕方(動画)
- ・ケアリーバーとの初詣など

広報手段

CONETのパフレットにInstagramのQRコードを載せ、イベントで出会った方に広報しました。多くの方がフォローしてくださり、着々とCONETの繋がりが増えていると実感しています。



こんにちは
何度かうちーと会ってくださるケアリーバーの方と1/5に長瀬神社に初詣に行きました🙏

CONET STATIONから歩いて行き、道中おいしいお店や難しい漢字のお店など発見🌟
運動不足なのでいい運動になりました～

さむいさむいと言いつつも長瀬神社へ到着！
初めての初詣らしく、以前長瀬神社の宮司さんに教えてもらった参拝の仕方を見出し一緒に参拝しました🙏

願い事はエビいっぱい食べますように。をきらめ、「世界平和」にしました🌟

おみくじは未吉！・・・二回目を引き大吉！！(笑)
おみくじの内容をキャッチャップフと見せ合ったり(特に恋愛運)、お守りを買ったりとても楽しい初詣になりました。

うちーも初詣は3回ほどしか経験がなく、こんなに楽しくケアリーバー仲間と初詣できるのは夢にも思いませんでした。帰り道「つながりができてよかった」と実感しました。

インサイトを見る

投稿を返信



自分らしく生きていく社会とは

児童アフターケアセンターおおいた
中野誠司

「自分らしく生きる」を考えさせられたCONET PROJECTである。

平成30年から里親家庭や児童養護施設等の社会的養護環境で育った若者の相談援助に携わってきた。

そこで出会った若者は、何らかの相談という動機を持っている。つまり、「困っている」のである。一人ひとりの言葉や思いに耳を傾け、共に考え、悩み、方向性をみつけて一歩を踏み出していく伴走をこころがけてきた。そこから見えてきたものは、「相談する」ハードルの高さとして距離をつくっていくことの難しさである。（一般的に関係性の構築というが、そんなものではない気がする。）

2年前に出会った社会的養護経験者である2人の若者は、これまで私が出会って来なかった若者である。

その2人は、「自分たちと同じように社会的養護環境で育った人が、互いに繋がりをつくることでその人たちが社会生活をより良く生きていけるのではないか。」というのである。2人もまた個人として何らかの悩みや問題を抱えているかもしれないが、社会全体に対する視点も持っている。そして、自分たちが、そのような人の役に立てないかと思っている。

2人と出会い、令和4年度にもう一人の若者が加わりCONET PROJECTステージ2が始まった。その若者は、「私は、施設職員や里親さんそして退所後支援機関（児童アフターケアセンターおおいた）によって支えられた。そのお陰で、今、社会生活を安心して過ごすことが出来ている。でも、そんな支えが同じ社会的養護環境で育った若者にはあるのだろうか？どうやって生活しているのだろうか？もし、支えや頼れる場所が無かったり、知らな

かったりする人たちがいるならば、そんな人の力になりたい。」と言うのである。相談する立場と支援する立場の位置が180°変わった。

この3人の若者が、これからの社会的養護経験者の支えとなり、拠り所となり得る。

また、将来的に、3人の若者と同じような意思を持つ社会的養護経験者が CONETという人や場所にコミットしていく可能性が広がる。

令和5年4月に子ども家庭庁が設置され「こどもまんなか社会の実現」へと政府が旗を振る。そして、同年度内にこども大綱も示されることになっている。社会的養育の見直しと家庭養育の推進に向けて制度が整っていくであろう。その変革期において主体であるこどもや若者たちは、自分らしく生きていくことを自己決定していくことになる。

既に社会生活を送っている若者にとって社会が変わるのではなく、若者たちが主体的に歩み自分らしく生きることのできる社会をつくっていく。

社会的養護経験者に関わらず、ひとりの人として周囲と比べずに今の自分自身を引き受けて生きていく。

3人の若者の一人一人の生き方が、このことを教えてくれた。そして、これまで出会った若者やこれから出会う若者に対しその人らしい生き方を応援していきたい。

アフターケアから見たCONETPROJECT

児童アフターケアセンターおおいた
飯塚美貴

CONET PROJECTは「相談所には相談に行かない」という言葉から始まった。

ケアリーバーをサポートする立場の私たち『児童アフターケアセンターおおいた』は『おおいた青少年総合相談所』の看板を掲げたワンストップ相談窓口のひとつである。ケアリーバーにとって、私たちに相談するための扉がそんなに重たいものだったなんてと大きな衝撃を受けたのを今でも覚えている。私たちはまず、「当事者が抱える困りや課題」に対する本人たちの視点とアフターケアセンター職員の視点とのズレを見つけだすことに時間を費やしていった。そんななか、今まで職員間で実施していたカンファレンスのときと違い、行き詰まり感がないというか、納得のいく答えにときどき出会っていることに気づいた。そう、当事者の生の声がそこにあったのである。

そもそも、「インケア中または措置解除後に、困りを感じたこと」というお題に対して、私たちアフターケアセンター職員の想像の中には「誰に相談したらいいかわからない」「相談のハードルが高い」など『相談』というワードがたくさん出ていた。しかし、同じお題に対して当事者の経験の中には『相談』の『そ』の字も出てこなかった。「“困り”があったら“相談”する」という、この2つの言葉が対になっていないのである。相談所の看板を掲げている私たちにとっては根本をくつがえす結果に驚いたが、よくよく考えたらすごく良いヒントを得た気がした。

もともとアフターケアセンターは、相談所内で相談に来る人を待っていたわけではなく、『プッシュ型』をうたい、定期的に訪問し話を聞く中で、困る前段階で対応していくことを心がけてきた。困りを未然に防いでいるかは知る由もないが、『プッシュ

型』の効果は実感している。というのも、当事者が徐々に、まだ“困り”になっていない小さな思いを私たちに話してくれるようになっていたからだ。小さな思いから、その当事者の望みや困りが見えるようになり、アセスメントを深めることができた。

ところが、そんな自負からさらに開眼させてくれたのが、本事業CONET PROJECTだ。私たちアフターケアセンター職員と近い距離感で関わってきたケアリーバーが、CONETメンバーと初めて話したときに、今まで私たちには話してくれなかった事実を、CONETメンバーお互いではたくさん語り合っていた。しかもそれが一度や二度の話ではない。年齢が近いからか、同じ境遇で育ったからか、CONETメンバーが持つポテンシャルか…どれも正解ではあろうが、私が一番感じたのは“経験値が近い存在”ということである。いわば、アフターケアセンター職員は“話したら何かしてくれる人”で、CONETメンバーは“痛みや喜びを分かち合いたい人”なのではないか。これはやはり相談機関では成し得ない、当事者だからこそできる事業なのだ実感せざるを得ない。さらには、当事者による当事者のための活動とも異なり、法人やアフターケアセンターとの協働（ハイブリッド型）により、地域社会とのつながりも広がった。

今後は、アフターケアセンターなりCONETなりを、ケアリーバー側が選び、うまく活用してもらえるようになるよ。そのための広報や取り組みを工夫していき、だれもが気軽にノックできて、ケアリーバーにとっては自動で開くような扉となってほしい。

“これまでの” to “これからの”CONET

○ CONET2022の振り返り

おおい子ども支援ネットさんから、2022年度のCONETを振り返る質問をいただきました。3人それぞれの言葉や伝え方に注目してみてください。私たちの個性が見えてくるかも…。

Q.「CONETとしてどのような思いを持って活動しましたか？また、活動を通して感じたこと、考えたことや、これからどうなっていきたいかを教えてください。」

「ケアリーバーのために、ケアリーバーが考える」ーこれはCONETで私が大事にしている思いです。ケアリーバーの私たちだからこそ、ケアリーバーのために何か力になれることがあるのではないか、その可能性を信じて活動しています。様々な活動を経ながら、CONETが少しずつ注目されてきていることを実感します。まるで、CONETのような存在がこの社会に必要なものであると私たちに返事をしてくれているかのようです。これからも頑張ります。

川村 涼太郎

私は、「社会的養護」という存在を知ってもらいたい。ケアリーバーの相談、話し相手の選択肢の一つになれたらと思いながら活動しています。活動していく中で、私たち社会的養護経験者のことを支えてくれる人が多くいることを知り、感動しました。私たちもその一員になれるよう頑張りたいと思います。社会的養護経験者だからこそ得ることができる(寄贈品、制度、アフターケア、SSTなど)と伝えていける活動をしたいと思っています。

内田 理美

私は社会的養護出身の方をはじめ、応援してくださる人々に勇気や自信を与えたいと思い活動してきました。気軽な雑談やSST等でこれまで関わっていただいた皆様には CONETのパワフルな可能性を感じて頂けたのではないのでしょうか。「誰か」がして欲しいことを「自分たち」でできるということを誇りに感じています。これから出会う人達にも、たくさんの驚きや楽しみをお届けできるような活動をしていきたいです。

後藤 拓也

付録

Special Thanks

令和4年度CONETの「つながる」という目標の中での活動で、出会うことができた方々をご紹介致します。ご紹介につきましては五十音順・敬称略で表記させていただきますことご了承ください。これからも新しい出会いも含めてCONETは皆様とお会いできる日を楽しみにしています。

☆出会ってくれたケアリーバーの皆様

Supported by 日本財団



CONET STATION来所者

- ・大分県こども・家庭支援課 課長
課長補佐
- ・大分県中央児童相談所の職員
- ・大分県内の助産師
- ・大分県副知事
- ・大分県福祉保健部 部長
審議官
- ・大分県内のフリースクール
- ・大分県弁護士会の弁護士
- ・香川県アフターケア事業
- ・株式会社三菱UFJリサーチ&
コンサルティング
- ・株式会社ファイン
- ・株式会社Cont
- ・内閣官房
子ども家庭庁設立準備室 内閣参事官
- ・放送局ディレクター

寄贈品を提供していただいた団体

- ・TsunAが～る
及び「TsunAが～る」への寄付企業
- ・フードバンクおおい

訪問児童養護施設

- ・栄光園
- ・小百合ホーム
- ・清浄園
- ・聖ヨゼフ寮
- ・山家学園
- ・鷹巣学園
- ・光の園
- ・別府平和園
- ・森の木
- ・わかばハウス

きつきプロジェクト訪問農園

- ・阿南農園
- ・グリーンファーム
- ・日浦農園

活動に協力していただいた方々

- ・大分大学福祉健康科学研究科
- ・児童アフターケアセンターおおい
- ・特定非営利活動法人おおい子ども支援ネット

PHOTO
ALBUM



令和4年度日本財団通常助成事業
「ケアリーバーのつながりとピアサポートの構築事業」
— CONETPROJECT —

CONETTEAM
川村涼太郎・内田理美・後藤拓也

事業実施法人 特定非営利活動法人おおいた子ども支援ネット
